

# 現学習指導要領に沿ったユニークな授業

文部科学省の「学習指導要領」が小学校で2020年度に見直されて以来、その授業内容は大きく変わってきています。学習指導要領は、日本のどこに住んでいても子どもたちが一定の水準の教育を受けられるようにするために、学校で教える内容や目標の基準を決めたもので、これを基に教科書や時間割が作られます。いまの学習指導要領に沿ってユニークな授業を行う徳島県の小学校2校を紹介します。

## 企業と連携し、より深い学び 徳島市新町小

徳島市新町小学校は企業などと連携し、より深い学びを得ることをねらいとした授業を進めています。

3年生は総合的な学習の時間に、近くを流れる新町川の歴史を習い、川の美化運動を行う「新町川を守る会」の人たちの話を聞いて自分の町



自分で考えたアイデアについて、ホンダの社員(右)からアドバイスをもらいました＝徳島市新町小の3年生のクラス

の環境を守ることの大切さを学びました。そして、町が抱える課題の解決に向け、住んでいて楽しくなるようなことを考えました。

授業で学んだことを「あったらいいな」と思う作品にして、ホンダ(本社・東京)が2002年から開催する「子どもアイデアコンテスト」に応募。この日はホンダの社員が新町小を訪れ、ビーチクリーナーなどホンダが開発した清掃機材による環境活動を紹介し、交流しました。

ホンダ社会貢献推進室の平山直子さんは「子どもたちのアイデアが広がる姿を見られてよかったです。竹中章公校長先生は「地元に関心を持つことで他者と共感したり、異なった価値観が理解ができたりするようになる。そのためにも、子どもたちが色々な企業などつながりを持つことが重要です」と指摘します。

## ICT活用し授業や行事 上板町立高志小

上板町立高志小学校は、タブレット端末などを使って授業を行うICT(情報通信技術)の活用で、 구글の教育プログラム「Google for Education」の実践校として認定を受けています。保護者からの欠席連絡、行事の案内や参加の申し込み、先生同士の連絡などもすべてICT



1年生のクラスでは、メールなどで相手を傷つけないように注意することなど、タブレット端末の使い方について学びます＝上板町立高志小

を活用。子どもたちは毎日、登下校前に自分のタブレット端末に「今の気分」を記入し、担任の先生に伝えていきます。

コロナ禍で、子どもたちが登校できない時はオンラインで授業を受け、先生が学校に行けない時は自宅からオンライン授業を行います。行事では、5年生は人気ゲーム「マイクラフト」の教育版を使って迷路や宝探しを企画して「6年生を送る会」を実施するなどしました。給食も、会話をせずに食べる「黙食」なので、給食センターから給食を作っている様子の動画を送ってもらい、それを見ながら食べています。

中川斉史校長先生は「ICTを使わない時間も大切です。地域で活躍する人たちと直接交流したりする」と話します。

## 「体験」と「情報」つなげ課題を解決

村川雅弘 甲南女子大教授に聞く

学習指導要領や授業づくりなどにくわしい甲南女子大教授の村川雅弘さん＝写真＝は、生活科や総合的な学



習の時間などを中心に、豊かな「体験」と多様な「情報」をつなげていくような学びが大切だと指摘します。

村川さんはまた、AI(人工知能)の発達で人がやっている仕事のお多くは将来、AIが担うといわれるなか、私たちはAIにはできない課題を解決する力を身につけ

必要があると強調。課題の解決に向けて、みんなで考え情報を集めながら、地域貢献などの体験をすると、自分が社会の一員として必要とされていることに気づくだけでなく、国語や算数、社会科などの知識や技能が社会や将来に役立つことを実感できると話します。

(高橋宏輔)